

さいき先生&かじた先生のハートフル相談 「ここが、肝腎です」 じん

【Vol.27】シリーズ：慢性腎臓病(CKD)と心臓病の意外な関係⑥



梶田達也先生



齋木豊徳先生

このコラムは、「福徳永会さいきじんクリニック」の院長・齋木豊徳先生、透析センター長・梶田達也先生が、腎臓の病気の知識や情報について解説。今回は梶田先生によるシリーズ「慢性腎臓病(CKD)と心臓病の意外な関係」の6回目です。

CKD・心臓病の予防に大きな効果を持つ糖尿病の治療

日本の糖尿病患者数は、2007年の10年間で糖
年々増加し、この50年間 尿病が疑われる人の総合
で35倍。糖尿病は、失明、 計が、1370万人から
脳梗塞(こうそく)・脳出 約2倍の2210万人へ
血などの脳卒中、心臓病 増加していることが明ら
(狭心症・心筋梗塞など)、 かにになりました。糖尿病
糖尿病性腎症による透 激増の主な要因は、この
析、下肢の動脈閉塞に伴 50年で食事からの脂肪摂
う壊死(えし)切断といっ 取が4倍にも増えたこと
たさまざまな合併症を起 と、運動不足などエネル

こすこと大きな社会問 題になっていきます。20歳 ギー消費の低下と考えら
以上が対象の糖尿病実態 調べ、肥満人口の増加とよ
調査では、1997年 ぐ相関しています。

リック・シンドロームは、 今話題の肥満やメタボ
まさに糖尿病への入り口 度な運動が極めて重要
の段階と考えられ、ほか で、まさに生活習慣を根
にも高血圧、高脂血症な 本から見直し、長期的に
どの生活習慣病を併せて 血糖値を目標範囲内にコ
発症しやすい危険な状態 ントロールしていくこと
と考えられています。世 が必要となります。中

も、進行すると透析治療 このように糖尿病の合
を余儀なくされる糖尿病 併症がある程度進行して
性腎症の発症、進展を防 から治療を開始すると、
ぐためには、できるだけ さまざまな制限や内服薬
早期から血糖コントロール などが必要となり、負担
を開始し、たんぱく尿 などが大きくなります。日
などの腎障害の有無を定 るから体重や血圧の自己
期的にチェックする必要 管理を行い、健診や医療
があります。 機関での検査などで糖尿
病や合併症の有無を早期
に発見・評価してもらい、
担当医と相談しながら対
策を続けることが、将来
的に制限や負担の少ない
日常生活を送るための秘
けつと言えます。

◇

この記事に関する問
合わせなどは、同クリ
ニック・腎臓病教室事務
局の浜岡さんへ。

所在地 〒720-0300
8338福山市瀬戸町山北

4500-1

電話 084(949)

2777

ホームページ www.

saike-cl.com/